

# 地域の経営人材活用を

## J A A M セミナー

日本アセットマネジメント協会（J A A M、小林潔司会長）は20日、第8回イブニングセミナーを開き、グローバルウォータ・ジャパンの吉村和就代表が「水道法改正に伴うアセットマネジメントの重要性」をテーマに講演した。協会会員ら約60人が聴講した。同協会では改正水道法とアセットマネジメントに着目した活動を展開しており、前回のセミナーでは厚生労働省水道課の日置潤一水道計画指導室長が登壇している。

## 吉村氏が法改正後を展望



吉村氏

冒頭あいさつした藤木修理事は、国内外および官民の双方に精通する吉村代表に「アセットマネジメントの重要性と改正水道法における留意点を解説してほしい」と要望し、セミナーの成果に期待を示した。

吉村氏は▽日本の水道事業の現状▽水道事業におけるアセットマネジメントの重要性▽水道法改正と残念なマスコミ報道――の3項目を解説し



小林会長

た。アセットマネジメントについては、経営・技術一体での取組みの大切さを示した上で、課題として台帳の不備やデータ化の遅れによる現状把握の遅滞、アセットマネジメント技術者の不足を指摘。資金と経営ノウハウを有する地方銀行等の活用、AI・IoT関係の技術開発をブレイクスルーの手法として示した。また、「マネジメントの語源はイタリア語の

MANUS」で、馬との信頼関係をつくって行きたい場所に連れて行ってもらうこと」と紹介。マニュアルに示されていない「老馬」の知恵の活用も必要」と述べた。

今後の水事業の方向性としては「地産地消のビジネス」を挙げ、地域における資金循環とノウハウ継承の仕組み、水・食・エネルギー一体のモデル、流域単位の考え方が重要だとした。

講演後にあいさつした小林会長は、吉村代表の講演における経営の論点を取り上げ、水道分野でのアセットマネジメントの推進に期待を寄せた。